

秋田新幹線「こまち」開業10周年



「こまち」を出迎える齋藤くん(左)

平成9年(1997年)3月22日に開業した秋田新幹線「こまち」の10周年を記念したイベントが3月24日、仙北市内のJR角館駅、田沢湖駅で行われました。

角館駅では、「こまち」と同じ10歳になる齋藤優成くん(当時角館東小4年)が一日駅長となり、角館駅に到着する「こまち」を敬礼で出迎えると、観光客からは「かわいい駅長さん」と大好評。

駅前では、飾山囃子が披露され、地元駅前町内会による振舞酒や納豆汁のサービスで観光客を歓迎しました。また、神代活性化推進協議会によるテントでは、つきたての餅を振る舞ったほか、この日デビューの「神代カレー」も販売され、長蛇の列ができ大繁盛でした。



飾山囃子と手踊りで観光客を歓迎



演歌歌手の水田さん



「こまち」を出迎える星野さん(左)



石神地区のみなさんによる梵天と手踊り

このほか、昨年「角館哀歌」を発売した演歌歌手の水田竜子さんのミニコンサートも行われ、多くの人で賑わいました。

田沢湖駅では、伊藤駅長から星野日菜子さん(当時生保内小4年)に、一日駅長の委嘱状が手渡され、なまはげや着ぐるみのたっこちゃんと一緒に「こまち」を出迎え、田沢湖駅に降りたお客さんを歓迎しました。

お客さんには、ブナの苗木プレゼントや振舞酒や銘菓が振る舞われたほか、駅前丁内会のみなさんからは、つきたての餅が振る舞われました。

駅前では、石神地区のみなさんによる梵天や手踊りが披露されました。

オリジナルフレーム切手「角館のさくら」発売



仙北市角館町の桜や田沢湖刺巻のミズバショウ、西木町のかたくり、抱返り溪谷、秋田内陸線など仙北市内の観光名所を10枚の切手にしたフレーム切手「角館のさくら」が4月2日から発売されました。

発売初日には、角館郵便局の小助川正道局長らが仙北市役所を訪れ、フレーム切手の入った記念の額を石黒市長に贈呈しました。

オリジナルフレーム切手の発売はこれが秋田県初となり、1部1,200円で5,000部の県内郵便局のみの限定販売となっています。



フレーム切手を贈答する小助川局長(左)